

# 尾張志

自四十七  
至四十八

和書門  
類  
二九二六〇號  
函  
一七一  
架  
三九  
冊

消

内閣文庫  
和  
二九二六〇號  
三冊  
二架  
七三函

内閣文庫  
番號 和 29260  
冊數 31 ( 25 )  
函號 173 13

地四三

内閣文庫



内乙

是後志集之四十七

國書

大正



年

...

深田...

...

...

...





尾張志卷之四十七

丙一〇八五〇號

深田増藏正韶謹撰

植松庄左衛門茂岳謹校

中尾八郎右衛門義稻謹輯

岡田六兵衛啓謹輯



中嶋郡之五

宿驛の部



驛

路

東海通熱田驛より引まき  
名古松として上京中と志りし

乃宿驛なり

稲多村より東のく、小澤村より西なり



あり問を本陣秘店等備りたり江戸あり  
清須宿あり二里系あり、萩系宿一里の  
馬池あり、南河萩系起の三宿とて、享長五  
年より宿並とあり

萩原驛

福系より一里餘のころ池の宿ありて町を立  
けり、天正の比より、其宿少て、  
西之川より、地あり、長尾武蔵  
守吉房入道、  
萩系西之川とあり、

東照宮石田三成と珠城、  
御凱陣抱き、  
とあり、  
萬と所を例、  
里老より、

起驛

縮玉起村より、  
ついで、  
の墨俣宿、二里宿の馬池あり、  
享長五年

関ヶ原系沙流陣の跡に池谷村と云ふ所あり  
驛ウツキと云ふ所あり

將軍家河上治西國の大名方岳府帰国系  
都大坂詰沙流の大名沙流本

勅使例幣使朝鮮琉球の蕃使皆其外公私の  
接ぐ者小使沙流の多るる振ハしき家や者

將軍家河上治朝能く来聘の時ハ河上  
其移を河上治と云ふ

古墳の跡

王塚

山崎村西河の上小舟を地蔵の石像あり昔  
火と云ふむけで病氣好むと云ふは治あり  
として意匠の人ありて并に里民屋と造りて  
霞ふを塚古雅にして傳并と云ふるは  
道徳神を云ふと云ふ府志小舟り此塚の  
小の石像を家河上と云ふ人登るは又草と  
其るものと云ふむらうと云ふ小舟を河上  
一石あり名づけしと云ふは此の石像と云ふ

つらう世いりぬる王子り志うりし  
砥塚

戸塚村少りう村の中巨岩多くむうー日本武  
尊劔と磨りひー砥塚と名づけ又村名  
ととらうーしーひ塚ーうりされど其名の  
性砥礪のうづひーあふび上右の墳の記るる  
べー凡そ河原相控玉高座郡の戸塚名と  
そとよの記に多うーあふ代多うり

大塚

大塚村性海寺は境内ふありむうー弘法大

師の築うれー塚少く大聖歡喜天と祀みし  
其場をうりそー寺院の記と村里の条  
小記

富士塚

馬寄村ふりり大岩一ツありて松樹芝げうた  
とむうー富士権現の社ありしとよひと宮  
後村多う古墳多う

大富士塚

南麻績村ふりり権現の社あり

小富士塚



城趾の部

勝幡城跡

城西村少阿の村名は城の西にある里なるのみか  
くつらうを構へ東西百十四間南北七十間又  
湟廓乃うら東西四十八間南北七十間今も  
みる田とらうら一府志小つらう今僅う  
松樹はく沙とらう天智伝景が書る尾法因司  
歴任畧小従五位上大中臣朝臣安長  
二條院應保元年辛巳奉勅任尾張權守居海  
部郡勝幡城とらうせり是七七寺は古縁起の

文小授りしる如く然れども其時代もがは  
小因司守女等以下法官人皆因府廳の公館小  
ありて城と築てあるらうとすはと城を  
えらう廳館してありしを戦國のうらひら  
めく城郭小治しとのとあつひあやうら  
ありそのはら館舎廢絶してやうく  
是永正年中織田洋正忠信定城地小城と築  
きありそまゆ後ち伝秀とらうれう織田  
真紀安土創業録等小信定信秀二代互城  
せしうらにうらと考ふは



刈安賀古城

刈安賀村の南にありその形と東西四十二間  
南北三十二間 尾陽雜記小 内外二重堀也尾陽  
雜記小浅井新八所城を同長男田宮丸も所  
城をもつて新八所田宮丸二代ありし  
なり然る小府志小浅井信徳守始桑之其  
子新八所及田宮丸三代居之とあるは誤り也  
信徳守新八所同人にして田宮丸の父な  
らむ三代といひざるは人物志の新八所の  
桑と考考せしむ

野府古城

野府村ふあり其あり八畝二十歩今田圃と  
する減田軍記の系図より尾陽雜記小信長  
公の弟減田丸新信治尾州野支城之元龜元  
年九月十九日戦死江州坂本とあるなり

坪内氏城跡

同村より其城址一及二畝をりしと見ゆ今  
民居ともなる坪内又其所の城跡といひ傳ふれ  
ど河まこのころの人々今も志すなり

吉藤古城

古多村少河りを流田圃と作るを古多古門  
の形城より一と一を古多川流田佐雄公の古  
より妙具寺所産の嘉吉冬年癸亥十月廿  
六日乃古流状小妙具古領阿古江野内同開  
番代官職事を藤三所宗次とあるハ之等  
古多門が古多祖より一

### 東宮重古城

東宮重村少河りてを是今田圃と作る城を  
酒井新たのりてハハ流と作るハハの  
人々今新と作る

### 下津城墟

下津村少河り文正記小従文正元年丙戌七  
月中旬旬頃洛中躁動覆天地諸國之軍兵魏  
馳上ル云尾張守護代織田兵庫助敏廣拂  
遠州陣少休汗馬甘氣在國任奪此雜説雖  
有上洛之支度依諸一族之會議待京師一  
注進処國中強人と同浪人四方蜂起聞音  
螺鐘声日夜無止刺欲襲下津然者大路  
小路城門々々櫓々拔於後人居於警固と  
見々々々府志小太田清花居此とあるハヤ



毛受古城

毛受村ありて今民居する尾陽雜記に  
毛受村は浅井新公の家老浅井玄蕃厚俊  
治ありしと云く同書の浅井系圖より府  
志に玄蕃ハ新公の家老ありしと云るせり  
厚俊とて家老後をつとめしなり今城  
跡小林平と云農民すみてそ末孫ありと  
云り

山崎城跡

山崎村ありて徳永法平治ありしと云る府志に  
法平は法平と云法平の二の次の城をいへて壽昌  
一と稱し武勇と人のあつれありしと云るなり  
と云ししけ治ありしと云るなり今田圃と  
あり

祖父江古城

上祖父江村ありて今民居する井ノ口  
久治しと云ひ治ありしと云る

稲島古城

稲島村ありて久田跡ありしと云る

陸田古城

人物の系小志の合せんごとし

陸田村少あり陸田市右衛門が居城ありそは

二反七畝ざりあり市右衛門の信雄公の家

跡少く小祿の土坂田村とてなりそは

博志と稱せり此あり陸田の古城の系あり

以魚り合せんごとし

一宮古城

一宮村少あり其址東西二十八間南北五十間

四面小湍あり関十郎右衛門築く居城なり

より人物の系小志の合せんごとし

中島古城

中島村少ありそは今田園とて中島

系人伝説を云はくあり

奥田城跡

奥田村少あり城主は織田軍記の系図小大和

守敏定二男近江守定宗尾州奥田城主女

京極持清女為飯尾氏子永禄三年五月十

八日於尾州鷲津城戦死其二男飯尾左馬

助重宗舊名彦三郎尾州奥田城主法名宗菴

又曰土伯後終加州と云るせしむるが如し  
坂田古城  
坂田村ありて其墟今畑と云る陸田帝は門  
をふりしと云ひ信雄御從士分浪帳  
小二百六十貫いあるさう陸田帝は門と云る  
あり

### 中野城跡

中野村ありて其跡今も其村ありて  
乃其城と云ひ信雄御從士分浪帳  
奥寺所苑の古跡文も信雄御從士分浪

帳等に橋本氏の人多く見ゆるハ皆為郡  
の人なり橋本村が其本貫の地也与本郡と其  
一族ありて為村ありて

### 三宅古城

上三宅村ありて其跡今田圃と云る橋本氏  
其地の最城と云信雄御從士分浪  
帳小橋本氏ありて其跡今も其地と云  
七百三十貫と云又或百五十貫の地と云  
ありて其跡今も其地と云ありて其跡今も  
一名の城井堀の城等と云けり

西島城跡

西島村少河りて其代一及三畝十歩ありと細とる  
す祖文江五郎右衛門が居城とてい傳へりて其跡  
廢志少記しとるなり

井堀古城

井堀村小ありて其跡民病とるなり  
井堀村小ありて其跡民病とるなり  
井堀村小ありて其跡民病とるなり

宅跡の部

長谷部氏宅跡

大塚村のうらち夜己のうらふ河りて今田圃とる  
長谷部民部太輔源政の宅跡村民長殿や  
きとるなり

刈安賀宅跡

刈安賀村小ありて毛利伊勢守のむその浅井  
村ハ新小塚りて田宮丸とるなり天正十二年  
田宮丸被害せりて其跡民病とるなり  
源政とるなり

御氏寺川安堂殿と稱せりを宅跡小治る法  
井七ちつとりつらそを齋海やとりのり

伊東氏宅跡

中尾村小ありむらうし杉原主馬也とりつらその  
当地少ありししが関東あれし伊東祐五郎吉道と  
つらとのつらにありる馬ゆぐ女ふとりのわく  
て男子を海うくそを伊東右京進秀近と云  
秀近当地と依りし武名と称れその末孫賤  
氏とありてその宅跡ふりみて伊東氏と稱  
れおふと禮の月ひし馬鞍一具と花寸古

製化跡小古雅るうらうら府志小りあり

三位法印宅跡

萩原村少あり豊良太閤の姉舞長尾武蔵守  
吉房老年に別髪し三位法印一路や号は  
此地小治りしとありし東郡乙子村少とあり  
治りしとありしとありし知多郡の人おの件小  
記を合せんとし

梶川氏宅跡

桑村小あり信長公麾下の勇士梶川清三郎が  
そふしとありしとありし今氏居とありしとあり



政阜少と強<sup>ク</sup>新<sup>ク</sup>がや<sup>ハ</sup>し<sup>キ</sup>海ありて今と概  
川橋とりふり

瀧川氏宅跡

稲高村ふりり 瀧川豊前守忠征の生所少り  
屋敷あり一旦廢して田圃とるりしと豊高守  
忠曉のとり再興して四段ふりるるを  
茅宅の条ふりるる

古跡の部

國衙廳館跡

松り村少ありて今國衙屋敷と稱すすて一村  
の北ふる官廳の跡とせ此古瀧國とりのり  
國府小館舎ありて守女掾目史生等此官人  
在治し<sup>中</sup>此政勢と考るる日本書紀乃天  
淳中原瀧真人、天皇元年の條小尾張國守  
小子部連鈕鈎チヒサコ云々ハノムラシサビチとあるが、  
此為ふりりたるるるりや、凡國小大上中下小  
の五等ありて、そのうち小官人の貞カズ寸冠位の

階<sup>三十</sup>とつりまはるが此處決る上國の如きは職負令  
の定めてし守一人女一人掾一人目一人史生  
三人也されども尾張参河等も上國なるが  
目二人サとまはるるなり類聚三代格の  
仁寿三年六月八日の格小案令條大因大少  
目各一人上國目一人而檢業内尾張参河豊  
前豊後等惣廿七國並居上國有大少目是則  
時々議奏<sup>三十一</sup>所加置也と云々つりて其官人の  
職掌を職負令ふらるるに云々せり文整け  
と云々つりて云々云々づる令の集解義解等と云々

云々云々守女以下つづきも五年四年の任限  
ありて在國一或る政勢うるそ一きれば  
延任とて年限とほして任國も在居一妻室  
とて目つて下はるるの如きは因衛の舎館ハ  
跡小廣りりりり大江匡衡朝長らどの其  
室赤深馬門とありりしと一少とあるが  
彼鈕鈎の如く續日本紀小多治比真人水守  
大寶三年七月甲午為尾張守とありり  
より六國史類聚因史等小數十人云々後  
の古書どのふのせしむる數百人小及ぶると

尾張因廳歴志小志ありしはたしなむる累  
其書とらんて勿くべし頼朝郷平家と討て  
世治よりしはち文治の末迄小守護地  
とて並しより武司の威權やうやくたると  
つりしころ空官とありて尾張も亦も因  
の治りしとらるるころに官廳と治りし  
そく年とて舎館もすれりて廢迄と  
はるりしなり

學校跡

田村少領の今澄とてしるはてを新と

れぞ大江匡衡朝臣の學鼓院と云ふし  
江吏部集ふんてきり其文詩文の系小記  
合せんとす

天背男命窟居跡

稲島村のち小領の中島海部直の祖神天  
背男命の治りしころ高屋の跡と里民の  
修くしり稻神社の系ありし合せんとす  
其外高村と石田とりし比ありてその細の  
土中より古尾のゆると農民堀出せり千年  
以て此古尾とてめづりし推るるむり

因衙小属の官舎のありしを治めや今定むる  
らび

國分寺墟

矢合村の事申のうにありて其所に礎石あり  
古瓦地中小多く埋まれり今好むもの人を古  
瓦と治博し治飛石  
聖武天皇佛道と阿がめ治あり治に  
國分寺ありしを分尼寺とて國土女穂のた  
めふ多くの治り余とて法華經最勝王經  
と漢せりしを治ひしを神皇正統記小

足々きりり續日本紀小天平十二年三月乙

己詔曰宣令天下諸國各敬造七重塔一區并

寫<sub>中</sub>金光明最勝王經妙法蓮華經各一部印行  
上本の

續紀に十部と云  
今金沢本小朕又別擬寫金字金光明最勝王

經每塔各令置一部所冀聖法之威與天地而

永流擁護之恩被幽明而恒滿其造塔之寺兼

為國華印行本花と云  
今金沢本小必擇好處實可長久遠人

則不欲薰冕可及遠人則不欲勞衆歸集國

司等各宜務在嚴飾兼盡潔清近感諸天庶

幾臨護布告遐迩令知朕意又每國僧寺施

封五十戸水田一十町尼寺水田十町僧寺必  
令有二十僧其寺名、為金光明四天王護國  
之寺尼寺必令有一十尼其寺名為法華滅  
罪之寺云々又續紀小神護景雲元年五月戊辰  
尾張國海部郡人刑部岡足為國の國分寺

小米一千斛と奉りしる賞りて外位五位と  
授りしる又天平感宝元年五  
月戊寅の紀やと山田郡人生江臣安人多  
為國の國分寺の初識と相承りて外位五  
位下と授りしる又元亨釋書小  
光勝法師空也上人尾張國國分寺にて剃髮し  
て沙弥とありしる也ありていふありし  
りりし 勅願道場ありしりりしと云ふ  
て四代のみ残あり

國分尼寺の跡

法華寺村あり天竺國押開豊櫻彦天皇  
治小因系尼寺とたり後ひ法華滅衆之寺  
と名づけしより續日本紀より元亨初書此  
資治表杖桑畧記等小志々せり中むり廢  
絶し其地より老松樹ありて巨蛇ウバをどすみ  
しうがそ松とれ蛇と退教し今曹洞宗此  
一小寺ありて因法寺とりしころちんトハ  
さくぶにどの標どりるりしり魚り於寺院  
の部にあり今をせんごし

長興寺廢跡

高洲堂村ありそ地と里倍尾堂と名づく  
古瓦ありは村小大吉寺西蓮寺等此壇あり  
むりし大伽藍のありしうがすしれり也  
ゆう堂と村名と其堂宇より起りしを  
浄土寺うと

浄土寺古跡

大矢村ありむりし瑞雲山浄土寺とりし  
巨刹ありしが廢己したり栴華先蓋藏  
小浄土寺化縁疏あり詩文の部ふとる人  
そ地今そ田圃とぬる

益田森

益田村ありむらゝ神社ありしを近世  
村如納院の増境内ありつゝしをあるを  
二海犬一雙あり赤漆御門の御りまふの  
神年海うせむしよふし一社也と里人ひ  
つゝ之府志ありしを之りされど彼高麗犬  
其形ありてちひさくしとよりかすめり小  
社なりを岡人のえらまふありて耕地を  
と怠しつゝたると因司の北は方の其民の心  
をうごめむしとてすともふて社ふをむふ

わい海小社小社らげとすうらぐら大社れ  
ありしものとしより考しあまは一宮真  
清田大社を海をともりてげねを定  
めて一宮にふりてなれしをるる  
燈和寺名所の条にりつゝと令せ考し  
此森あり大なる松ありし一府志あり  
しこれ今うねり著れ松のきたり

八面森

有松村あり小社とたり八頭の鬼とあり  
海とつゝ堤尻小中島郡有松村に松の

敷く、ふちの杜と八面の森と叫侍らむり  
けふ八面の鬼神治り、愛智御曹司と  
云人け鬼と双陸うちて孫まじり、好鬼の力  
てて人民と怒あたるみく却て人とあま  
む神とるり、いふ宗めて一祠と建て祀り  
侍らむりや丸村里に侍ら口碑め、る難ひ  
多し、そのうみ命とあがりて、因志と流せし  
時け里よりめ、書出せし、れが愛智下  
総守源義成別武と初め、御曹司と叫ぶ  
との右、南門尉花成左、逆將監義保等ととふ

愛智と孫、子孫も世小侍ら子孫有松村  
るふ八面鬼のる、い文やとん、ざらやと  
るるせり

蓮花池跡

宮地苑池村ふあり、とらとれそ、ふ今、田と  
るるありと、契田名とらひてむり、ハ、地、の  
そち、の、苑と、契田、太神、多、なり、一、が  
中、古、の、集、を、る、流、り、苑池村の名は、比、り  
り、より

小栗海道



小栗寺の南にありて小栗悦と云り今廢し  
て國と云るむらう小栗判官横山庄司と不  
和にして庄司判友と害せん謀りしを  
判友の妻照子娘を庄司に嫁らうが父の孫  
と夫と告ぐれば判官退き照子と父の執氣  
成りて國と遍歴せしが判友病を執り  
かれを照子とすけて地車ふのせり由き  
有りきししひ終くそれがせりし道と  
云り名流けししは流ふしは信流ふし  
美徳の不破郡青墓ありて照子娘長志と

と小奉公し朔夕清水と汲るどしと流し  
き業とせしし我尾張沙依の横戸村きさ  
いりし小照出娘の清水とりふありてうら濃州志畧小  
そものとしりされどと小栗が物語る石信流  
少く世不流布す小栗実記と云ふとよの好  
世の流地ありとふたづる信書也為ふた  
るべし流國なりと古道のうらりて其形  
の跡ありとすて小栗河邊と云ひる  
流ありと云るあり今知りぐし小栗が実  
流を鎌倉大草寺に流承三十年の以常陸

因の住人小栗孫太郎清重とて人謀叛形左  
兵未智源持氏と退治せしれをらぐ其子小次郎  
助重志のびて関東とて兵の謀念の控置と  
りし所より其子とて比治盗があふやと  
りし小次郎人とも小次郎を救へ遣りて定と  
奪ひしとていとして毒酒とてそくえ簀一け  
はが照姫とて小次郎共謀計とてひそ  
く小栗ふ若くは小次郎のいひ  
して吾び碎取しるるあがいむき中  
小次郎ふやとて出賊等が盗入てつる

逆しる悪馬とていひ此を鞭とて若海の  
乃傷ふとせ入り又逆のびて之は國ふ  
治りの法盗等小栗があふ人姑女若くは  
しつるを川下洗め定と奪ひしありしが照姫  
いひしよりはどのもがりけれは川下這ひ  
出りては命せしとて水亭のころ小次郎  
三河より鎌倉へゆり照姫と尋出し後  
定とあふ盗賊どもを誅しつる  
し三河小栗が孫すふりとも  
せり其のお説とて附書しつる

長福寺跡

おろねど 之阿と尾張を境ちうく又其處も  
をう〜松を東り〜のもそりう〜  
る古詔の跡う〜るう〜知り〜  
其〜のとある〜の考小海〜  
七ツ寺村小町のむり〜福園山長福寺は此  
ありて七ツ寺とらひ〜今名古庄ふら  
りて其跡と桂林寺と建之〜り村名  
これよりりて起る〜り〜名古庄の寺  
院の跡〜り合せん〜

馬橋趾

益田村小町の信長と渡馬〜り此橋を渡り  
〜中ひかればを馬忽ち斃〜り〜とさる  
馬の尻ろ〜り斃ま〜れを農夫馬と  
曳くともそ道とよ〜りて此橋と御〜  
所小名づく其橋今も廢れ〜り〜  
小橋と小橋跡〜り〜里人瘡病する  
一豆と意て此橋下〜り投て入〜りのま〜り  
ま〜り〜平金〜此所と信小截瘡橋とと  
〜色〜

此丹粒古説多く府志に暫く天神墟淺井  
村とあるよしあるし然れどもやうりなれど  
うりなれども天神の跡とくそしとく  
とくと考へん

小田切傳之丞忠近謹圖  
杉本愛七良美謹書

尾張志卷之四十八

深田増藏正詔謹撰  
植松庄左衛門茂岳謹校  
中尾八郎左衛門義稻謹輯  
岡田六兵衛啓謹輯

海東郡

四至の塚

當郡を名古原より西のりるにありて北  
東ハ萬場川と隔てて愛智郡と隔てて  
北よりして中務郡小湊より西ハ海西郡より

接するも一國海濱にして伊勢に津東の  
船路あり此海と古歌に尾張國の海といふ  
凡そ郡小山磐石毛の比るく田畑あり  
りて陸に豊饒あり郡あり東四ノ南あり  
凡そ三里ありあり

古今此かあり

むろしハ海部郡としひて尾張國にあり西  
南の隅あり海ふそひくる大郡ありしと  
六七百年よりあり右大將頼朝卿治世の  
あや二郡とこありて東海東と西と

海西と名づけしは日本紀の神護景  
雲元年五月戊辰の記同三年七月甲辰の記  
日本後紀及び類聚國史の延暦十八年九月  
己巳の記天長九年己亥の記三代實録の貞  
觀六年八月八日壬戌の條(元)慶元年十二月二  
十五日辛卯の條とそとめ和名類聚抄延喜  
式等其外数百部の古書とそふみる尾張國  
海部郡とありしなり



新居屋村 甚目寺村とて江如見ハたうみの  
精カミトカミるる為郡ト憶感の比名あり

戸田庄

戸田村と本所少ク万場村砂子村れあり  
りて移村とて朝野朝野羣載小補御庄司右  
大臣家府尾張因富田庄大徳寺平後政  
一本ト季一ト一康和五年二月十日と云々真福  
寺所之院の智護摩口決抄の奥出小延文  
弟六天十月日於尾妙海東郡富田庄得麥  
郷書写了と云々あり

富吉庄

須成村今村為希存の移村とて中島  
郡長沼村萬徳寺所院の秋論弟六徳書  
の奥書ト宝徳弟二庚午三月七日書写年  
於尾州海東之郡富吉庄大智談議所ト云  
ト云々名古公宝生院所院ハ歡喜賢經  
ハ奥書小尾州海東郡富吉庄大智西方覺  
真房新迦寺御本書写了文明八年丙申三  
月廿八日と云々あり

蟬江庄

総持村小家村寺とりし蟻に本村蟻江  
新田村蟻に新田村寺此庄の本村なり  
づきと今修くともうとらひて富吉庄と  
は出とらうふたぢいたるるなり

乙子庄

乙子村と本村ありて裁<sup>カ</sup>子<sup>バ</sup>村多とりし

蘓保庄

百田村中一色村にありし村とりし蟹江  
村のうらに百保<sup>ボ</sup>とりし地ありは庄名は  
たるるなり

秋竹庄

秋竹村と本所にて河急村多とりし  
どと河急村ハ分脈系譜小山田先生重直住  
尾張國河急庄とあるはむらうハ庄号  
なりと修くともうとらひたる也

門間庄

系州村千引村のありし本村多とりし大  
須寺の福寺所蔵の宝珠水とりし書のみ  
出く應永六年三月八日於尾州海西郡  
門真庄三腰極楽寺惠光院令書寫了唐



瑜とんえうりニ城村ハ今ある郡のうらうり  
り下門間在ととソハ一宮御神  
庫乃大般若波羅密多經の奥書小尾張國  
下門間在津島牛頭天王宮大般若經應永  
廿二年孟冬初二日とんくたり

日置莊

日置村と本所少て内坊屋村外坊屋村の  
並存數十村とソハ台記とそとめ古書と  
と小尾張國日置庄とんくたりハ愛智郡  
林の日置庄とソハ定らるるハ台記の文を

愛智郡の人物の条とあるは令せんとす

中切莊

越津村ツミ椿市村ツバ寺の並存数村とソハ

中之莊

二ツ寺村 苑正村ハチマサ等並存の数村とソハ

其外民部省圖帳小浜郡中嶋庄と  
んえふ脈系譜に尾張國河邊庄とんく  
たりたるが如きは存く存ありたりて中  
島村河邊村とソハとんくたりたるもの  
うれが如し然にらひとんくたりたり

いづれ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

郷名

藤浪郷

波多とりやうし府志とるしとれど此郷  
名古書ふのせとるどんぐ波多の秋人真  
野時綱があつたりする書どもふりて  
府志とるのせとるるるる

秋竹郷

秋竹村のさとりよきと古書も記し  
ある

松葉郷

西條村のありしところよりさきづて今の村名と  
郷名とゆびあるは物ととあるするもの多  
くまじき必むうしの郷名ふいあるべとある  
をい鳥子地新田の弥勒寺の本寺弥勒  
菩薩の銅像の銘尾州海東郡芝山郷  
弥勒寺本寺明應九年八月廿九日とある  
芝山郷とある郡のうらるれどうけどうる  
郷ありはうう河出村の旧名ととるかきと  
あるのなり

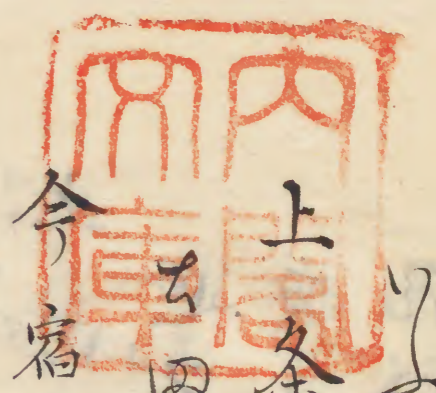
村里の部上

廻間村

郡はうら小東のそては。里下て清原地  
西小並び名古屋より二里西北より枝村  
一所ありて新田ととる松系をより以下乃  
村と同在るら省きて村ごとふいあるは

土田村

廻間の南に並び名古屋の西小二里ふあり  
とあるは尾張国裏田莊とあるはちのり  
はつみ田より北にあり枝村と呼と



上条村

今宿村

上条村の西乃方名古屋の西小二里あり

上条村の西乃方名古屋の西小二里あり  
村小屠兒の羣ありて草履雪踏るとと  
ゆりゆり今宿の縁多とゆり

方領村

方領の西乃方名古屋より二里半西あり  
あり法原ととゆり

森村

方領の西名古屋の二里半餘西あり  
深津門家某と中の表とよみ本因幡  
従三位中杜天神とあることあり  
たりと表村之新あり  
たりと表村ハ中島郡に属して今ハ表土村  
とゆり下の表と表郡のゆり  
あり伊表村に隣れるゆ急伊表表ととゆ  
り中の表ハ別ととゆり  
あり表田のゆり



そくれ乃野々くの萱津とより久し東関紀乃小  
かやつの東宮ともいふ六百番歌合小東  
流の如やつのうらうらとより久し竟考れ寛富  
士記小如りつとりき野曲撰要抄の列紙追如  
曲文保三年  
の古書小茅茨や切らぬ如やつの新代  
きも新代てむらむらぬの古海りとも見  
え本國帳小從云佐萱津天神ともるし  
三因信記と尾張國萱津の乃場と見  
梅華先盡藏小の茅津道場と久記とも  
四比ハ上中下の萱津村のりるなり

中萱津村

上萱津の南名古庄は一里半餘西のうらあり

下萱津村

中萱津の南れうら名古庄の二里西ふありむら  
の海流上中下の三村とつて稲系地乃うらに  
ありしなり

坂牧村

本郷の南のうら名古庄より二里西ふあり

長牧村

坂牧の南名古庄の二里西ふあり佐徳國なる丹

郡に同名の里ありて文字より七ヶ巻村と  
か

北馬嶋村

長牧の西のうゝ名古庄より二里半西あり

東条村

長牧の南名古庄より二里餘西のうゝあり

西条東条ハトト一村あり

ハツ屋村

下笠津の南名古庄の二里半西あり

堀之内村

東条の西名古庄の二里半餘西あり

馬島村

小馬嶋の南西のうゝ名古庄に二里半餘西あり

あり本國帳小海部郡從三佐馬島天神や

あり

花常村

小馬嶋の西名古庄より二里半餘西あり

中嶋村

馬島の西のうゝ名古庄の二里半餘西あり

和名抄小海部郡中嶋と名く民部省國帳

に海部郡中島庄公穀八百九十三束有餘假  
粟四百七十三丸とありたる曰此より

西条村

中島の北のうゝ名古庄より二里餘西とあり  
松系庄と本郷とあり俗に松島村とよ  
三本木村

城の内一里餘の南にありて名古庄の二里半  
西のうゝとあり

鎌瀬賀村

東条北の南のうゝ名古庄乃西南二里半餘あり

下田村

万場の半里むらう西條庄南とあり  
名古庄より二里西とあり和名類聚抄に海  
部郡島田とありはつらうといふ人ありと  
ありともつらうつらやとよとよといふ  
りぬとぞ

大坪村

下田北西南のうゝ名古庄より二里  
餘とあり妙真寺所産の元徳二年四月三日  
沙弥承念と讓状と大坪里半島とあり同



寺の惣安二年八月の月安物に大坪三と  
ろくろりふろり里なり

安松村

大佐尾海道と通つて下田の小名古屋より三里  
西南よりなり

遠 島村

安松の東名古屋より西南三里よりなり尾張の  
古岡 三河の松投明神小にを居沖流るると海の中  
孤島と後がけりされど彼古岡よりよりの  
下をよやーしきとの也以上なる松系村也

新屋村

今新居屋

を名古の半里より北のり、名古屋の西二里  
半にありて江如見 あまい 庄とよみ下れ村  
同庄より枝村と久 うづ 例 い とよみ和名類聚抄に  
海部郡新屋と名く民部省図帳の残缺  
海部郡新屋郷公穀一千五百八十三束假粟  
小六百二十五丸貢海料驛馬以半税充國庸  
本因帳に従三位新屋天神とあるハふるさ  
のりろり日本紀の武小廣國押盾天皇元年  
の記小尾張國新家屯倉 ヤサ と名く舊事紀小

尾張氏の同祖新家連とのせしむる姓もさう  
ましくする。尚郡はさうさうのうらるる新家村  
さうさうのうらるる。

小路村

新屋の西北のうらるる名古屋は二里半西のうらるるに  
ありさうさうの甚目寺村より二戸さうさうに  
小路さうさうのうらるる。一村さうさう  
さうさうの府志に相系花とさうさうの隈あり  
江如見花さうさうのうらるる。

甚目寺村

新屋は東名古屋の二里西のうらるる。二代實録  
小尾張人小甚目連ハタノノラミとさうさうの甚目を  
始とさうさうの地名さうさうの勢陽俚諺とさうさうの書す  
一志郡甚目村は津より二里南の雲出川の  
南海とさうさうの世町さうさうのあり尾州  
名古屋の部外一里さうさうの小甚目寺歎る  
とさうさうの験無双の本さうさうの往昔あり村さうさう  
さうさうのうらるる。洪水さうさうのうらるる。海中  
流さうさうの網の中さうさうのうらるる。上ら  
路さうさうのうらるる。さうさうのうらるる。



ふしたるりくふそれと忍れやゆげくく  
とんくくく以上江如見花うり

### 砂子村

万場宿の西名古名より西南二里半餘ありて  
古名と川添村といふ今れ名を改め一年  
月とまじは枝村東砂子新川と隔て  
東よりあり天明年中に出来たる新里より  
戸田花といふ下に數十村皆同花より

### 千音寺村

砂子の西南名古名より北より三里

ありむり千音寺といふ寺れありて  
今はいさる跡とあり寺院は四宇ありて千音  
寺といふなり

### 服部村

ふる昔ちれ南名古名の西南三里ふあり伊賀  
伊賀を外添ふとと後部といふ地をむりし  
綾織錦織結織等がそみり流るればうて  
其河よりて室町將軍の時後今もたつ  
地路たりて地取くもともなりされ  
とと改名の地名と苗字と名れり例多れが

いづれあゝん今ハ考ヘグー

萬場村

砂子北東のろ〜び名古庄の西南二里半

小所ハ砂子海峯の富海寺ハ町庄立下

徳實村

下田の半里餘南北ノ名古庄乃三里西南に

あり実名徳實トシノ人の名田の地多ク

富永村

徳實の南東名古庄の三里西南小所ハ英法

の山縣郡とそドメ法岡ノ多キ地多ク

福ノト〜ある條ノ次ノ戸田村の條ト令セ

ス〜

戸田村

徳實北東のろ〜名古庄の三里西南にあり

是戸田庄の本取ろ〜むろ〜ハ富田ト云

し〜と直世今北北〜拾遺和歌集

とろ〜こ〜とよ〜如く南ふの条ハ名

ろ〜ふ〜あ〜りの条ハ名〜戸田

吟り藏玉和歌集に福と富草トシ

名〜ト〜富草のよ〜田ト〜ふ〜地名

ろろぐーとてはあつろ海産ととりて糞  
とを味ゆえ清浄にして高貴の所食料  
とるるろろとて地は富永村富吉莊とて  
地とあり

福田新田

富永れ南名古庄の二里半南西にあり東  
西長く五十町程あり戸田川と接して  
二つとて東福田西福田とて東福田に  
小名七つ西福田とて小名五つあり東と船渡場  
八百島 蟬田 春田野 七反野 智多郡反

小指とて西と 海東分 戸田分 蟹江分  
東之割 新庄分とて

春田村

戸田の東名古庄より西南三里をうりふあり  
むろーハ壑田とてハ治田とて

茶屋新田

福田の南名古庄の西南三里をうりあり  
所茶屋新四郎が築きしとて

供米田村

春田の南名古庄の西南三里をうりあり

箕田大神の供米と捧ぐ一詞のより以て  
天の寛政の此村に娘ありて眼中小入り  
墓と出する小妙と坊よりを遊の人ありて  
目と浚サラへる世に供米田クマイデをいひて  
のちを法を述村に松村のをいひて享  
和文化以て人江松ありて  
ちの村の娘が孫女法としてをいひて  
**包里村**  
供米田の南名古屋の西南三里あり是  
人の実名にていそゆる包里名也

江松村

包里村東南名古屋より三里より西南に  
あり枝村と納屋山とあり  
**榎津村**  
春田の東名古屋より二里半餘西南あり

文和三年四月廿三日藝田沙神の目録  
愛智郡榎墓郷とありてありてむ  
しい愛智郡の内ありて地之隣村に松と  
ありてありて八町ありてありてあり  
むありて一村ありてありて二村あり

えぬつえぬつとゆひけしとてもあはむ  
其例ハ山田郡乃山田と矢田ハ一村あり  
こりれまゝハ同郡岩壽と岩作とハ同例又  
中島郡小原と正源と一村ありと二ツに  
れハ字訓と字音とにゆびひけし等ハ  
俗の多きより尾張地名考より云り

助光村

榎津の東北名古屋の二里半西南にあり助  
光とゆふ人の名田とてハ当村土宮神明  
社乃棟れ小奉建立御社一字大檀那助光

卿橋家福富宮内左衛門尉光親文明十一己卯  
潤九月八日と云くしり

伏屋村

助光の東北名古屋の西南二里半小あり  
信濃の筑摩郡美濃乃羽栗郡とてハ免  
法因ハ例多き地名ありむろハ大川或ハ  
後海等船の往来する川とて、破る事  
布施屋とゆふ破きて船の着居とゆふ  
料とせしより海海抄袖中抄等ふん  
たりとてハ大川とてハ里なりと云り



ろろろ

長須賀村

伏屋村北名古屋の二里南西にあり東國  
みて砂比多き地或ハ河系ろど砂と風吹  
吹きてろくろりするとすかとりふり貝原  
篤伝よりろりろりともをき砂新ろり

松下村

大服部北東名古屋の西南二里南ろりろり  
川ろろろど埋れり地白くろり地白くろり  
徳子里ろり

前田村

助光の東名古屋北三里ろり西南ろり  
神鳳抄に尾張國前田とありろり  
ろり枝村之新ありろり 東前田 河原 西服  
とろり天明四年新川と堀割一後東前  
田と河系とハ川東の地とろり

伊麥村

下田北南東名古屋ろり二里西南ろり  
武藏國橋村郡の伊麥村と回例ろりろり  
むぎとろり本因帳に河部郡伊福郡天神

とあるハナハナ一六領真福寺ハ院書  
野護摩口決抄の奥書ハ延文第六天十月日  
於尾州河東郡富田庄伊麥郷書寫了金剛  
資能金ト云々

桂村

下田ハ東名古庄より三里西西少河の山城  
因葛野郡桂村より河波岡の勝浦カッラと同日  
例の村名也尚村廣濟寺の藏田カシ十郎達  
成の天文年中の空述物ハ勝浦と云々  
伊麥森村

伊麥の南名古庄の三里西西南にあり尚郡  
土田村の西ハ森村あり森と伊麥森と  
新家村

伊麥ハ東名古庄より三里西南にあり日本  
書紀の新家連新家屯倉のり茶の新ニヒ庄の  
條ノより合セアんズと  
丹波村

甚目寺より一里ノり西の渡邊海乃の小  
名古庄よりハ三里西ノり妙具寺ハ院

古院文のうらち 永正十二年十月十日の字  
を物々須賀垂散在內丹波垣内下地之事と  
云ふたり

蜂須賀村

丹波の西名古屋の三里條西あり妙真寺  
所産の慈安二年八月の古院文と蜂須賀  
とより地名云々より付村名と蓮花寺とつ  
くく弘法大師の蜂と對トこめて家と  
せしむるより新りよりつるはる  
るやゆと蓮池のありしを埋めて里と

たれば<sup>ハネスカ</sup>蓮須賀より尾張地名考より  
とふとさとしあづり例の須賀といふ地  
ありしなり

牧野村

蜂須賀の南に、名古屋の三里南西に  
あり牧といふ馬飼のつゞきなりたるありし  
馬飼戸のありし地也以上の数村皆戸田  
莊なり

須成村

徳実の西名古屋に西に三里半あり

富吉莊より以下の村をみるほどに在也  
金柳村 カキヤナキ

頃成れ西名古庄より二里半餘西南ふあり  
神尾村

令柳れ小名古庄の西南二里半にあり  
西森村

令柳の西南名古庄よりと西南四里にあり

枝村之令柳 サイカキ 才勝北照 北新田 源氏嶋より

才勝ハ皂莢 サイカキ の多くあり地を喰ひそあり

とそ源氏流ハ義朝朝臣の宇野久茂の

時いこひ流ひく地をめぐり名づく

大野新田

蛸江川日光川等の数川と隔てて源氏寫

の西南のり、名古庄よりとほどり、

四里半ふあり中名郡長野村万法寺所

苑の釈論第六卷聽書の桑古小室法二第

庚午三月七日申之剋之間書寫畢於尾州

海東之郡富吉之在大野談議所と云々

より四五百年以来よりありこり一里あり

又大須真福寺所藏に觀音賢經の文明

八年丙申三月廿八日の奥出めと海東郡  
富吉荘大智西へ、免真坊と云るせり  
今村

須成の南名古庄に西へ南三里餘あり蟹  
江布町同新町は今村ととも奥出めと江乃  
うちるれが蟬江荘と云ふと今ハ富吉  
荘と云ふ以上の村とみる富吉荘あり

蟬江本町村

今村の南名古庄に西へ三里半ありて蟹江  
荘の本所あり府志徇行記等小富吉荘

と云ふハ誤りと云へ以下二三村同荘也  
長智村 万法寺 所託の釋論第一聽書に  
奥書小尾州海東郡蟹江常樂寺住僧於  
文殊院客坊書寫之延徳二年十二月廿四日  
榮算とあり 大塚村 世海寺に古院文の内に  
嶋江とありと云ふ者あり嶋江と云ふ  
礼と云ふ者あり嶋江と云ふ者あり内小鹽江と  
云ふ者あり嶋江と云ふ者ありと云ふ者あり  
と云ふ者あり嶋江の枝村に新設寺村百  
保村と云ふ者あり嶋江と云ふ者ありと云ふ者あり

竹の角と百度切と書てづんどこむゆり  
蟬江新町村

川と隔てて今村の西のうへ名古庄より三里半  
西の用とありうるぎを海づくり等そ外魚糞と  
業とそら者多き里なり

蟬江新田

蟬江新町新町の西南の方名古庄よりと  
あるどくく四里をりふありそ代所とあり  
く数ヶ所ととれ多う其小名ハ舟入コカ子ノ粟  
金野コカ子ノ芝切市場河津中河系大海用オホミヨ

とくふ大みよハ日光川乃下溜蓋新田ハ水の  
あつりの熱名なり府志ハ此新田と富吉莊  
とそらハ誤りなり郷名とすりてかに江の名  
とすべし

小家村

伊麦の西のうへ名古庄の西南三里ふあり正字  
鯉江コヒエるるどく一者那の近江ありうり瀬江  
蝦江蟹江等の地名あり又近江國豊智郡  
小鯉江村るどくあり同どくゆりれば也

鯉橋村

頃成の小名古屋より三里餘西南少あり以て  
みる嶋に在たり

古道村

新屋の西小のうゝ名古屋に西の方二里半に  
ありて中之庄とて以下の村と皆同ド一處  
流古馬津より新講くゆく官及ハナとせむ  
しるるべし今こ所名の海とあり一廢村と  
久しき所なり

富塚村

新屋に西名古屋より二里半西あり

沖ノ島村

富塚の南名古屋より西南二里半餘あり  
和名類聚抄に海部郡志摩とあるを以て  
沖ノ島沖ノ島ありと沖ノ心ありと只添  
文字の傍多けれなり

木折村

沖ノ島に西名古屋の三里をより西南あり  
木折木田通き里少てむりしめ故木田  
よりある名あり

金岩村

本物の小名古庄より三里ばかり西へあり支  
御といはれり

花長村

金岩の東名古庄の西二里半餘ありあり者郡  
といはれり正名等あり同じありあり村名多し  
いぬさゆ急め名とともありあり

二ツ寺村

金岩の小名古庄より二里半餘西のありあり  
あり

東溝口村

二ツ寺の西名古庄より三里より西ふあり  
森山村と中橋村といふ丹波沿ありてむ  
其沿水の落口は此ありあり  
づく中名郡の溝口村も同じ沿の西の落  
口ありあり名づくといはれり

花正村

東溝口の南名古庄の三里西ふあり神鳳  
山抄に尾張国花正御厨といはれり  
ありは村の四名と推拾村といはれり  
に今の名ふ改め



治承のむらうより花正とひいし沈神鳳抄  
し形然しるしもの也

中橋村

花正北西名古屋よりと目どりし三里より  
森山村

中橋の南名古屋より三里西の方より

木田村

花正北南は島海名古屋の三里西より  
塵添塙囊抄しる藤木田の故りあるは  
しうらうらうし府志しり魚りしそしり藤

篠田村

条し北は辰さくしり畧し

木田の南名古屋の三里條西南より和泉  
の伝田シダと名と同くしり文字と異ふは  
村天道の社の地ふ概穴ありし老物多く  
拙り村氏物の宮とりし村の巽し物屋敷と  
りし地もあり寛政の以老物の人と誑カケラり  
る多うらうしり村氏物と畏ましりし  
和泉の伝田は表の概めしり

北芥村

夷山の南名古庄は西南のうへ、三里餘あり  
小橋方村

藤田は南名古庄の西南三里半あり以上

乙子村 カトコ の数村これ中之庄あり

小橋方は南名古庄より三里半西南に

ありて乙子庄なり

義原村 ワイハラ

依原湖邊と通して乙子の南名古庄の四里  
をりり西南ありて乙子庄なり

高臺寺村

義原の西南名古庄よりと同日方四里に

ありて穂保庄とて以下の数村なる日庄

なりある村業師寺の鯨口は路く皐諦寺

とあり鬼子母神の子に皐諦女とて非

あると寺号とせしが村名とてあり

あり今ハ如うたひ寺と呼ぶ寺あり業師

寺と其古寺にてハたぐ鯨口ハ如うの修

しおるありけ村の民衆ハ假面の古きを

つと持ちし能の惣尉の面の如く怖オソロしき



問て如先規沙汰しければ老婦怪びあへる  
る限るし之ゆりて其由とすとすまは彼里の  
長ハんちうしめんがためと承く先祖の所  
成と改易しそ彼婦と承きしとてまう  
をいされしまは承ては流し中りると承く  
多り

中一色村

百町の西名古屋より西南のうへ四里半あり  
枝村二ヶ所 市場中郷とす  
日光備前新田

中一色の小名古屋の四里半西南ふあり近世  
日光といふ所の開發承る名づくといふ  
ふ所と津島の真野時綱が流すむといふ  
新溝の跡と存せにひかるといひ多ひ  
別とすかそ旧地よりしつるハ甚しき誤り  
る

頭長村

百町の西名古屋より四里半西南のうへふあり  
半右衛門新田  
以長より南名古屋の四里半西南にあり長尾

半右衛門といふところの開墾は是れより名づくる  
鹿伏兔村

半右衛門新田の南名古屋は西南四里半あり  
伊勢因治鹿部のか太村もむろろ鹿伏兔  
きこれはいとみやびる里の名ろろ相波流  
麻川の山間より流れてきて幾瀬と小川の  
合して川中廣くするは河太と名づけし  
よりさあはるはと鹿合川日光川等の後  
く古川の合より比るれを別く名づけし  
うとそりりうがなして

犬井村

鹿伏兔は西南のうろ名古屋よりと回ど  
方四里半餘あり枝村といはれり

鵜江新田

犬井の西南名古屋よりと回どろろ五里あり  
ありとと名古太新田の屋色るりといふ  
そ一村といふ

白濱村

白町の東名古屋の四里餘西南小河あり南寺  
町の改修寺所産の古泥文小尾州海東郡

あつろろ田村に内貳百五拾九石六斗五升三勺あり  
云云文祿四年八月三日と名くしり以上の村  
白みる穂保と名をり

川邊村

下田の南に名古屋より三里西に南あり  
て秋竹と名とりし本因帳に海部郡河葉天  
祐とあることり天野信景の屋  
はあつろとむろの芝山郷とひり  
思ふよりあれどを代とそこと定ふ  
大がし海西郡鳥ヶ地村の弥勒寺に系ふ

あつろろと名をり

秋竹村

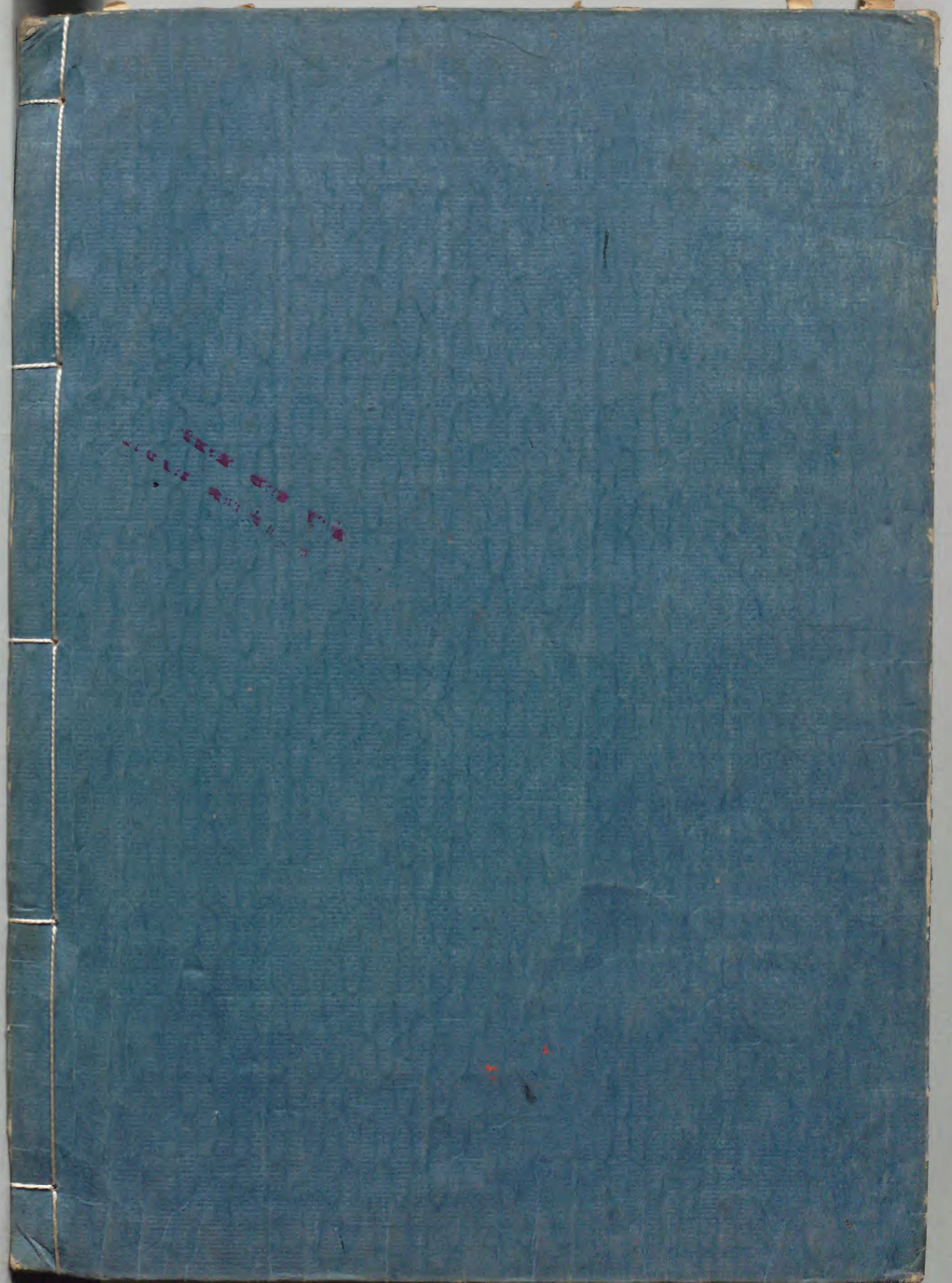
佐屋海邊砂子の西名古屋の三里をり西  
南ふあり秋竹と名の本下ありと川邊  
と其花とり





小田切傳之丞忠近謹圖  
杉本愛七良美謹書

*[Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side]*



皇朝文獻通考  
卷之...